

宝生会 月並能

平成三十年十月十四日(日)
午後二時始

演目の解説

能「敦盛」(あつもり)

源氏方の武者「熊谷直実」は、平敦盛を自らの手にかけてことに深い思いを抱き、出家して蓮生法師となり、敦盛の菩提を弔うために一の谷に向います。そこに笛の音と共に草刈の男達が現れ、「草刈の笛木樵の歌」の話をし、一人の男が残ります。残った男は蓮生に弔いを頼み、敦盛の霊であると仄めかして消えてしまいます。その夜在りし姿で現れた敦盛は、合戦前夜の陣中の有様を見せ、自らの最後を語って蓮生に感謝し、後生を託して去って行きます。

狂言「柑子」(こうじ)

柑子とはミカンのことです。昨夜の集まりにもらった三ツ成りの柑子(一本の枝に実が三個ついているミカン)を土産に持って帰ったのを主人から返せと言われた太郎冠者は、もうその柑子をたべてしまったので、たくみに言訳して主人に叱られます。一個ずつの言訳が滑稽です。

能「葵上梓之出」(あおいのうえ)

光源氏の正妻葵上は得体の知れない病で臥せっていました。「もののけ」が憑いていると考えた朱雀院の臣下が巫女に梓の弓を引かせると、弓の音に惹かれて高貴な女性の生霊が現れます。臣下がおおよそ名はわかつているが、名乗り給えと請願すると、女性は六条御息所の怨霊と名を明かすと、源氏をめぐって嫉妬の心が強く沸き上がり、また賀茂の祭りでの車争いで恥をかかされたことを恨み、冥界に連れ去ろうとします。そこで、横川小聖が呼ばれて祈禱が始まると、鬼の姿となった御息所は祈り伏せられ、ついに成仏して去って行きます。小書「梓之出」は、巫女が梓の弓を弾くという事に因んで、前シテの出が常の「一声」から特殊な囃子に変わり、型も変わります。

14:00

敦盛

川瀬 隆士
金森 隆晋
ツレ當山 淳司
シテ山内 崇生

ワキ 則久 英志

間 大藏 教義

大鼓 高野 彰
小鼓 住駒 彦彦

笛 藤田朝太郎

後見

亀井 保雄
佐野 由於

地謡

東川 尚史
高橋 憲正
水上 優
高橋 亘
藤井 雅之
前田 尚廣
武田 孝史
金森 秀祥

15:30

柑子

善竹 十郎

善竹富太郎

15:55

葵上

ツレ澤田 宏司
シテ野月 聡

梓之出

ワキ 森 常好

間 善竹大二郎

大鼓 國川 純
小鼓 森澤 勇司

太鼓 小寺 佐七
笛 内瀉 慶三

後見

宝生 和英
小倉伸二郎

地謡

亀井 雄二
和久莊太郎
小倉健太郎
大友 順
今井 泰行
登坂 武雄
大坪喜美雄
辰巳満次郎

へ 休憩 十五分

終演予定 午後四時五十五分頃

◎入場料
S席 正面 / 8,000円 A席 正面 / 7,000円
B席 脇正面 / 6,000円 C席 中正面 / 5,000円
D席 自由席 / 3,000円
学生割引 全席種1,000割引 ※30歳未満の学生の方

◎チケットお申込先
宝生能楽堂オンラインチケット
<http://www.cnplayguide.com/hosho/>
宝生能楽堂事務局
03-3811-4843(火曜~日曜10時~17時)
カンフェティ (五雲会のみ販売)
0120-240-540(平日10時~18時)
<https://www.confetti-web.com/>

黒	野	平成三十年十一月十一日(日) 午後二時始	次回予告
塚	宮		
高橋	東川 光夫		
亘			



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)